



小学生1日歯医者さんの様子【関連記事5ページ】

大学基準協会の適合認定を受けて

点検評価全学審議会長(学長) 浅香 正博



本学は昨年、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、「大学基準に適合している」と認定され、2018年4月1日付けで「大学基準適合認定証」および「認定マーク」が付与される予定です。

本学の建学の理念に基づく教育研究の質が保証されたわけで、このたびの評価申請に当たられた教職員各位に深い謝意を表したいと思います。2002年の学校教育法の改正で、大学は認証評価機関による第三者評価を受け、その結果を公表することが義務づけられています。また、認証評価は各大学を対象に7年周期で実施され、本学は過去3回の認証評価を受けていますから、今回は4回目になります。この制度はもともと、米国で大学の質保証を行うために導入された制度ですが、日本の認証評価も同様に、

大学の教育研究水準の維持向上がその目的です。

本学は、大学評価分科会からは、ほとんどの項目で5段階(S・A・B・C・不能)のうちの「A」評価を受け、「不能」はありませんでした。また、本学全体では、「地域に根ざした教育と社会貢献」が特徴として挙げられ、特に北方系生体観察園を無料で一般に開放していること、北方系伝統薬物研究センターが地域振興に貢献していることが高く評価されました。一方、努力課題として助言を受けた項目に、一部の研究科における成績評価基準の明確化、各学部における学生受入れ方針の策定などがあります。

次回の大学評価(認証評価)受審は2024年度です。それまでに今回の評価で明らかになった課題に対し、全学が一丸となって解決に向けた改善の努力を重ねていきたいと思っています。

CONTENTS

大学基準協会の適合認定を受けて	1
新任教員・昇任教員紹介	2
定年退職される先生からのメッセージ	
高大連携	4
国際交流	
2018年度入試結果速報	5
認定看護師研修センター修了式を挙 小学生1日歯医者さん ～歯医者さんのキッズシアター～	
同窓会活動状況	6
学校法人東日本学園後援会 活動紹介	8
第10期 SCP (学生キャンパス副学長)が決定 SCP主催 チャリティ・キャンドル・ナイトを開催	9
私の学生時代	10
OB訪問【薬学科】	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	



Instagram

大学公式Instagramはじめました!

https://www.instagram.com/hoku_iryō/

大学の日常を発信中!
携帯・スマホからはこちら



新任教員・昇任教員紹介

新任教員

平成30年1月1日付



歯学部 教授
(生体機能・病態学系(組織再建口腔外科学))
志茂 剛(しもつよし)

広島大学歯学部卒業、岡山大学大学院歯学研究科博士課程修了。吉備高原医療リハビリテーションセンター歯科歯科医師、ペンシルバニア大学歯学部 ポストドクトラルフェロー、岡山大学歯学部附属病院第二口腔外科医員、同准教授を経て、本学就任。歯学博士。

昇任教員

平成30年2月1日付



心理科学部 教授
(臨床心理学科/司法犯罪心理学)
野田 昌道(のだまさみち)

東京大学教育学部教育行政学科卒業、神戸家庭裁判所家庭裁判所調査官、東京家庭裁判所家庭裁判所調査官、神戸家庭裁判所姫路支部主任家庭裁判所調査官、横浜家庭裁判所川崎支部主任家庭裁判所調査官、本学心理科学部臨床心理学助教を経て、教授昇任。

平成30年2月1日付



歯学部 准教授
(口腔構造・機能教育学系(保健衛生学))
松岡 紘史(まつおか ひろふみ)

新潟大学人文学部卒業、本学大学院看護福祉学研究科臨床福祉・心理学専攻修士課程修了、同大学院心理学研究科臨床心理学専攻博士後期課程修了。北海道医療大学病院医療心理学専攻職員、同歯学部口腔構造・機能教育学系保健衛生学分野講師を経て、准教授昇任。

Message

定年退職される先生からのメッセージ



薬学部 教授
和田 啓爾

本年3月、定年を迎えることとなりました。1982年4月、私は薬学部衛生化学教室に助手として着任してから36年間、本学一筋に過ごしました。当時は薬学部と設置間もない歯学部のみでした。大学駅はなく、大学、当別駅間をスクールバスが往復していました。列車の便数も少なく、始業時間は9時半でしたが、土曜日が休日ではなかったので授業時間は十分確保されていました。

当初、学生と年齢が近かったのが兄弟のような感覚でした。当時は4年制で学生生活も今ほどカリキュラムがきつくなかったため、研究室総出で夏はキャンプ、冬はスキー旅行と、なつかしい思い出が脳裏に焼き付いています。年を重ねるごとに、講義や学部運営にもかかわるようになり、さすがに兄

弟感覚で学生と相対することもできず、次第にうんちくを披露することに。本学のいいところは、学生と教員の距離が近いこと、いろいろな意見があっても、いざ行動するときは一体感を持って臨むこと。地域性は必ずしもいいとは言えませんが、純粋な教育研究生活のできる環境だと実感しております。

36年間勤め続けられたのは、自分のような人間を受け入れてくれる懐の広い大学だからだと思っております。今、大学は厳しい社会環境に置かれています。将来を見据え、今後の動向を鋭く察知し、機敏な行動力で大学の発展に向け、日夜進んでいくことが必要と思います。本学そして係る教職員や学生の皆さんの益々のご発展を祈念し、定年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



薬学部 教授
平藤 雅彦

1993年4月に本学に着任以来25年が経ち、この3月で定年退職を迎えた。東北大学薬学部を卒業し、それまでは同歯学部の助手として、研究が主な自由な教員生活を送っていたが、当時の恩師だった先生を通じて南勝前教授より本学へのお話があり着任した。それまで北海道は一度も訪れたことがなく、面接の時、北大近くのホテルから南先生の運転するRV車で本学まで案内していただいた時の景色は今でもよく覚えている。

本学には助教として着任したが、早速待っていたのが講義と多くの学生、大学院生たちとの教育研究であった。それまで講義は担当しておらず、学生時代に受けたかつての授業を思い出しながら、板書と教科書を使って自己満足的な講義をしていた。しかしある時、学生によ

る授業アンケートに「この授業はひどい」と書かれているのを見てショックを受け、それからは講義資料作りやプレゼンソフトを使うなど、周りの先生方の講義も参考に工夫していった。それまではほぼ一人で進んでいた研究も、ここでは指導する立場となり最初は戸惑ったが、熱心な多くの大学院生や先生方の協力を得ながら進めて来る事ができた。

本学での25年を振り返ると、空間的にも、時間的にも、そして人生的にも、「思えば遠くに来たもんだ」と言う気がする。研究成果や来し方に忸怩たる思いもあり、今後の薬学の行く末も杞憂している。しかし、これまで多くの学生を薬剤師として社会に送り出すお手伝いができたことは誇りに思っている。本学部卒業生が益々活躍することを祈念するとともに、お世話になった本学の諸先生に感謝申し上げます。



薬学部 教授
八木 直美

私が本学に赴任したのは39年前、高田昌彦先生(現 名誉教授)がいらした薬理学教室でした。当時、4年生(2期生)が12人教室に配属されました。年齢が近かったこともあってか、皆さんの人となつこに大変驚きました。年齢で慣れるのに時間はかかりませんでした。当初の仕事は、4年生男子と保健所から数匹の雑種犬を預けて来て、当時は固定台や機器も揃っていませんでしたので、4年生が犬を押さえて高田先生が薬物投与後の採血をされ、その血中薬物濃度の測定をしたのを今でも鮮明に覚えています。当時の学生さんたちは、すでにお孫さんくらいしゃる年齢です。あれから40年近く経ちますが、学生さんたちに囲まれて仕

事しておりますと、自分もどうの昔にそういう歳になっていることを、ついつい忘れてしまいます。それくらい、毎日たくさんのエネルギーをもらっていたのだと痛感しております。薬理学から製剤学、そして現在の薬事法制分野に異動となり、時代とともに学生さんの気質も環境も変わりましたが、共に悲しみ、怒り、悩み、そして喜んだことは今も昔も変わっていません。

本学の職員の皆様、卒業生並びに在学生の皆さんに支えられ、無事にこの時を迎えることができましたことを深く感謝申し上げます。どうか昔ながらの医療の良さを残しながら、新しい風を吹かせていかれますことを心よりお祈り申し上げます。

「感謝と思い出」



歯学部 教授
中澤 太

朝、目が覚める度に「早く大学に行きたい」と、身支度もそこそこに出動した毎日。その繰り返しで、本学歯学部で過ごした私の13年6か月だった。どんな些細なことでも全身全霊・猪突猛進に取り組み、研究と教育の充実した日々を過ごすことができたのは、私を支えてくれた多くの先生方や職員の方々の御協力、そして家族の寛容さによるものだと、心から感謝している。

特に思い出深いのは、SCRIP活動に取り組んだ学生諸君との出会いである。ファカルティアドバイザーとして5回、SCRIP日本代表選抜大会に参加したが、何れの学生も熱心に研究に取り組み、全ての大会で上位入賞(優勝1回、準優勝2回、第3位2回)を果たしてくれた。さらに、入賞後に米国の各地で行われた世界大会に参加し、本学の学生が世界各国からの学生と親密に交流する素晴らしい姿を沢山見せてもらった。これらの学生諸君に出会い、多くの感動を共有できたことに深く感謝している。

また、大学院生としては最も難関である日本学術振興会育志賞を、研究指導してきた本分野の大学院生が受賞した(私立大学としては3校目、歯学分野では初めて)ことも強く記憶に残っている。天皇皇后両陛下御臨席で行われた授賞式では、初めて日本学士院に入る経験もできた。

さらに、これまで私が交流してきた海外研究者との絆を基に、Indonesia Univ.、Mahidol Univ.、State Univ. of New York at Buffaloの3校との学部間姉妹校提携に貢献できたことも嬉しい思い出である。

このような、学部学生や大学院生の研究指導、国際交流活動が評価され、理事長賞を3回受賞したことは、本学における私の教員生活の中で、最大の誉であり、今後も全身全霊・猪突猛進に次の人生に取り組む覚悟で居る。



看護福祉学部 教授
小林 正伸

「医療大学での10年間に感謝」

北大遺伝子病制御研究所から移って10年間、看護福祉学部の教員として楽しく過ごすことができました。毎年ゼミ生5人と楽しく飲み会をしたり、国家試験対策の勉強会を行ったりしましたが、うれしいことに卒業後もFacebookなどを通してつながり続ける卒業生たちがたくさんいます。沖縄に旅行すれば一緒にご飯を食べたり、飲みに付き合ってくれる教え子がいいます。大阪にも東京にもたくさんのお教え子たちがいます。一昨年、大腸がんのおべのために札幌厚生病院に入院しましたが、教え子たちがたくさん病棟看護師をしており、彼女たちの成長ぶりに一安心したことを思い出します。すごい財産と思って感謝しています。北海道医療大学に移つ

て10年間、医学部の新設をめざして活動したり、歯科内科クリニックで外来診療をしたり、保健管理センターの医務室で健康管理業務に携わったり、大学病院の診療など多彩な業務に携わることができ、飽きる暇はありませんでした。大学への通勤時間も、教科書の執筆時間として有効に使うことができ、教科書を2冊、一般向けのがんの本を1冊出版することもできました。北大にそのままいたならばできなかったことだろうと思うと、こちらに移れたことは私の人生にとって様々な彩りを与えてくれた、なんてラッキーな出来事だったんだらうと、深く深く感謝しております。本当に長い間ありがとうございました。



看護福祉学部 教授
Howard
N. Tarnoff

「Retirement Article」

I first came to Japan at the end of March 1976 to work as an English teacher in Tokyo. The popularity of Japan had not yet even started and amazingly on the streets of Ginza when I met another foreigner walking along the street it was such a rare event that we would wave, say hello, or even stop to chat. I loved Tokyo with all my heart and I was so shocked by how big it was even as compared to my hometown of NYC. My stay was only 6 months at that time and then I returned back to the US for Graduate Studies. I returned to Japan once more to another face of Japan which was the Hokuriku area in the very traditional and picturesque city of Kanazawa some 2 years later. It was the exact image of old Japan that many foreigners have of the land of samurai and geisha and it was a precious learning experience about cultural Japan on a daily basis. I was a foreign graduate student under the Ministry of Education at first and I studied under the guidance of the Department of Public Health in the School of Medicine, Kanazawa University. I then became a foreign instructor teaching English in many faculties of Kanazawa University which was ideally located right on the exact grounds of Kanazawa castle. I walked to work daily to my class in the castle. After 5 years in Kanazawa as both a graduate research student and then as a teacher I wanted to have yet another experience in another part of Japan. Everyone I talked to in Kanazawa and also in Tokyo recommended that I head for the much loved city Sapporo on the island of Hokkaido. It was a much bigger city than Kanazawa with a larger foreign population. I was fortunate to land a job at Sapporo Medical College where I worked as a foreign language teacher. Hokkaido culture was again so different than either Tokyo or Kanazawa. People were truly more open minded and frank and it was like a blend of Japan and North America. After Sapporo Medical College, I was fortunate to be recruited by 2 very different universities at both ends of Japan, Miyazaki Medical University in Kyushu and Higashi Nippon University here in Hokkaido. I was still young and unafraid of winter so I wanted to remain with the friendly folks of Hokkaido. In seemed like fate that Higashi Nippon University was located in an area of Tobetsu called Kanazawa. I was back to Kanazawa!

Higashi Nippon University was a rather compact and a very intimate university in 1988 when I first arrived with just 2 departments at that time; Pharmacy and Dentistry. I taught English to both faculties. The

students were mature in age, especially in the School of Dentistry.

There were surprisingly many students from Okinawa which made for an interesting mix of student backgrounds. Higashi Nippon University grew as the years passed and new faculties joined every few years making the university extend itself in many ways. The name changed to Health Sciences University of Hokkaido and I still continued teaching in almost every faculty established so I got to know and understand many types of students. I was placed in the Faculty of Nursing and Social Services which was an ideal match for me.

I was busy with teaching but also advised the English Speaking Club (ESS) and at first and for quite a few years after we had many students and interestingly, also quite a few faculty members who attended meetings and parties making for a quite unique ESS club.

I wanted to help internationalize HSUH and so in 1992 a small delegation went to take a look at the University of Alberta in Canada. It was love at first sight for me and the others. The university was huge and beautiful with amazing architecture. Prof. John Bachynsky and Prof. Len Wiebe from the University of Alberta faculty of Pharmaceutical Sciences were instrumental in bringing our two universities together in such a dynamic and friendly way. Director of the UA English program, Ms. Mimi Hui pioneered our Summer Language & Culture Program for the entire time. It has been a joy to work with these three key individuals from the University of Alberta for all these years. I have made many great faculty contacts in the many years of going to Edmonton. I have had the great pleasure of bringing hundreds of HSUH students from every faculty for this experience that includes language classes, academic tours, and exciting social activities coupled with a home stay for the last 25 years. I am hoping for this special relationship to continue on just as passionately even when I retire.

My great thanks to so many people at HSUH as well as the students. I feel the students, faculty, administrators, administrative staff, cleaning staff and guards of HSUH have a kind hearted personality that spreads to all corners of the university. I am fortunate to have seen our university grow so nicely over these 30 years. Thank you from the bottom of my heart.



リハビリテーション科学部 教授
岩瀬 義昭

本年度で定年退職する前期高齢者の仲間入りいたしましたこともあり、誌面を借りてメッセージいたします。札幌に在住する両親の介護のため2年ほど南北を往復しておりましたが、体力的に無理ができなくなったこともあり前職(鹿児島大学医学部保健学科と大学院保健学研究科を兼務)を早期退職し、2016年4月に南の地からUターンしてまいりました。本学に厚労省の医道審議会と同席した縁で知り合った上野前教授が在籍しておられた事もあり、リハビリテーション科学部作業療学科の完成年度に赴任しました。前職において作業療法士養成課程で基礎作業学の講義、他学科との横断的なリハビリテーション科目、身体障害領域の作業療法等を教授していた事や大学院博士前期および

後期課程で研究指導に従事していた経験を生かして当大学の業務に就いております。ところで、国は今年度末に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が改訂される方向で動いております。その内容は、1.国家試験受験のために修得すべき総単位数の増、2.臨床実習単位数の増とその内容の見直し、3.専任教員要件の見直しと員数増とされていますので、当大学においても対応が求められると推測します。医道審議会に所属していた時に、国家試験結果の是非判断や理学療法士・作業療法士の倫理問題への対処だけでなく、療法士養成課程の審議等を行っていた経験がありますので、今後改訂規則への対応にも努力したいと思います。



薬学部 教授
大倉 一枝



看護福祉学部 講師
高橋 久江



予防医療科学センター 教授
辻 昌宏

以上の諸先生の他、薬学部 大倉 一枝 教授、看護福祉学部 高橋 久江 講師、予防医療科学センター 辻 昌宏 教授が定年退職されます。ありがとうございました。

With heartfelt thanks.



高大連携

札幌丘珠高等学校との 高大連携授業

2017年11月1日(水)、北海道札幌丘珠高等学校1年生22名を対象とした高大連携授業を実施しました。リハビリテーション科学部作業療法学科の鎌田樹寛教授による模擬授業や演習を受講し、認知機能維持を目的とした間違いさかしによる時間感覚の相違体験や、作業療法士の役割について学びました。また、大学見学中には卒業研究に取り組む大学生たちと交流しました。



看護職・リハビリ職 体験学習

2018年1月9日(火)、札幌旭丘・札幌大通・札幌新川・札幌平岸・札幌清田・札幌啓北商業・札幌藻岩高等学校1・2年生、札幌開成中等教育学校4・5年生の100名を対象とした看護職・リハビリ職体験学習を実施しました。本事業は2012年度に締結した各校との高大連携に関する包括協定に基づく実施事業で、今回で6回目の開催です。

看護職(看護師)希望者は、看護・看護師とは何かを学び、衛生的な手洗い、バイタルサインの測定、聴診、シミュレーターデモンストレーションを小グループに分かれて体験しました。リハビリ職(理学療法士)希望者は、筋収縮のメカニズムを学び、体を動かしながら筋電図と力の大きさの相関を体験しました。リハビリ職(作業療法士)希望者は、講師とのコミュニケーションの中で各々の作業への興味・関心をチェックし、革細工によるペンケースづくりを体験しました。今回の体験学習が将来の進路選択・決定の助力となれば幸いです。



プレ先端科学特論(4年生)、先端科学特論(5年生)を開講

2018年1月10日(水)、11日(木)の2日間、札幌開成中等教育学校4年生54名と、5年生11名(11日のみ)を対象としたプレ先端科学特論、先端科学特論を開講しました。

4年生は10日にかん予防研究所・藏満保宏教授の特別講演を受講。進行したがんの動態、腫瘍マーカーの役割、分子標的治療、二次元電気泳動法、質量分析法による蛋白質の同定などを学んだほか、他講師による口腔粘膜遺伝子解析を体験し、マイクロリトルの世界に触れました。

11日は岩手医科大学・徳富智明教授の講演・演習を受講。ゲノムや遺伝性疾患、遺伝学的検査を学んだうえで家系図の重要性と理解を深めるとともに、10日の学びを基にタマネギからDNAを採取、糸状のDNAを目で確認しました。また、三重中央医療センターの梅原言語聴覚士の対話型講演を受講し、木と石の階段の比較を例に、遺伝要因と環境要因(経路)についても学びました。

5年生は健康科学研究所・高井理衣助教の講演を受講。遺伝子とゲノム構造、親から子への遺伝子の受け継がれ方、遺伝子の違いや解析を学んだほか、4年生と同じく梅原言語聴覚士の対話型講演を受講。他にも昨年度のプレ先端科学特論で遺伝子の違い(耳垢の乾型・

湿型)を学んだ体験から、現在医療業界で注目されているコピー数多型に着目し、米の消化酵素(アミラーゼ)遺伝子の解析に触れるとともに、口腔粘膜遺伝子解析を体験しました。

参加された生徒の皆さんは、知識と関心を深める有意義な時間を過ごされたようでした。



徳富教授、梅原言語聴覚士、太田教授による口腔粘膜遺伝子解析を体験、マイクロリトルの世界に触れました。



徳富教授による講演・演習を受講し、ゲノムや遺伝性疾患、遺伝学的検査について学んだうえで家系図の重要性について触れ、自動家系図作成ソフト「f-tree」を使って理解を深めました。

国際交流

医療従事者職能向上研修機関 (ロシア・ハバロフスク)と交流協定を締結

2017年11月20日(月)、医療従事者職能向上研修機関(ロシア連邦、ハバロフスク)と本学は、両機関の医療従事者の医療・学術分野での交流促進を目的とした交流協定を締結しました。ロシア連邦における協定は、サハリン州保健省(サハリン)、樺東国立総合医科大学(ハバロフスク)に続いて3件目となります。



スウェーデン王国レクサンド市訪問団が来学

2017年10月26日(木)から30日(月)までの5日間、スウェーデン王国レクサンド市と当別町の姉妹都市提携30周年を記念してレクサンド市民約60名が当別町で過ごしました。彼らは当該滞り期間中に来学し、大学の最新設備の見学や、YOSAKOIソーラン祭り部との演舞などにより大いに交流を深めました。また、学生13名が通訳ボランティアとしてウェルカムパーティーをはじめ記念式典などに参加しました。



当別町内視察



YOSAKOIソーラン祭り部の演舞鑑賞

日程	行事
26日(木)	当別町長訪問/ウェルカムパーティー
27日(金)	当別町内視察/来学/最新設備が整った実習室や中央講義棟を見学/YOSAKOIソーラン祭り部の演舞鑑賞、一緒に演舞も
28日(土)	記念式典/航空自衛隊音楽隊コンサート/ディスカッション/高齢者と若者の地域共生について当別町民とレクサンド市民が活発な意見交換 コーディネーター:坂野雄二地域連携推進センター長・安藤善裕国際交流推進センター長/札幌市内視察
29日(日)	スウェーデンヒルズ訪問/文化交流・スポーツ交流/フェアウェルパーティー
30日(月)	帰国

ニューヨーク州立大学バッファロー校 歯学部と学部間交流協定を締結

2017年12月20日(水)に、斎藤隆史歯学部長と中澤太歯学部教授がアメリカのSchool of Dental Medicine, The State University of New York at Buffalo(UB)を訪問し、学部間学術交流協定締結の調印を行いました。本学歯学部において本協定は米国との初の協定であることから、今後、学生及び研究者の盛んな交流が期待されます。また、UBには眞島いづみ学外研究員(歯学部27期生、日本学術振興会特別研究員PD)が留学中であり、更なる共同研究の発展も見込まれます。



中国・海南省の高校生が来学

2017年11月8日(水)、外務省が推進するJENESYS 2.0*により来日した中国・海南省の高校生27名と引率・通訳4名が来学し、看護福祉学部臨床福祉学科の体験学習に参加しました。当日は、高橋由紀助教による高齢者疑似体験と池森康裕助教によるリフト移動体験の後、志水幸学科長による日本の社会福祉制度の概要に関する講義を受講するなど、約2時間のプログラムに熱心に取り組んでいました。

* JENESYS 2.0...アジア大洋州地域及び北米地域と日本をつなぐ青少年交流事業。日本経済の再生と日本的な価値への国際理解の増進をめざして日本政府主導の下に開始された。参加青少年は帰国後に、SNS等を活用して積極的に日本の魅力について対外発信することが期待されている。



2018年度 入試結果速報

北海道医療大学

一般前期入試を全国12会場で実施。

本年度は1月30日(火)・31日(水)の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国12会場で一般前期入試を実施しました。総志願者は、2,284名でした。

センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えます。志願者数は、1,525名でした。

編入学Ⅱ期に6名の志願。

編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で6名の志願がありました。

社会人特別選抜入試に4名の志願。

2018年度入試から全学部学科で社会人特別選抜入試を実施しました。全体で4名の志願がありました。

2018年度 編入学試験(Ⅱ期)結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	社会人	3(3)	0(1)	0(1)	0(0)	0(-)
	一般		2(0)	2(-)	0(-)	-(-)
歯学部 ●歯学科	2年次	若干名(若干名)	1(2)	1(2)	0(2)	-(1.0)
	3年次		0(1)	0(1)	0(0)	0(-)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	3(3)	0(0)	0(-)	0(-)	0(-)
	一般		0(0)	0(-)	0(-)	0(-)
●臨床福祉学科	社会人	3(3)	0(0)	0(-)	0(-)	0(-)
	一般		0(2)	0(2)	0(2)	0(1.0)
	指定校		0(1)	0(1)	0(1)	0(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人	若干名(若干名)	0(0)	0(-)	0(-)	0(-)
	一般		1(2)	1(2)	1(0)	1.0(-)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	社会人	2(2)	0(0)	0(-)	0(-)	0(-)
	一般		0(0)	0(-)	0(-)	0(-)
●作業療法学科	社会人	2(2)	0(0)	0(-)	0(-)	0(-)
	一般		0(0)	0(-)	0(-)	0(-)
●言語聴覚療法学科	社会人	3(3)	0(0)	0(-)	0(-)	0(-)
	一般		2(0)	2(-)	0(-)	-(-)
合計		-	6(9)	6(9)	1(5)	6.0(1.8)

2018年度 社会人特別選抜入試結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科		1(-)	1(-)	0(-)	-(-)
歯学部 ●歯学科	若干名(若干名)	2(-)	2(-)	2(-)	1.0(-)
心理科学部 ●臨床心理学科		1(-)	1(-)	1(-)	1.0(-)
合計		-	4(-)	4(-)	3(-) 1.3(-)

認定看護師研修センター修了式を挙行

2017年12月7日(木)、2017年度認定看護師研修センターの修了式を挙行了。5月の入学時から7か月にわたる講義、演習、実習を経て、33名(感染管理分野14名、認知症看護分野19名)の研修生が各教育課程を修了し、2018年5月の認定看護師資格認定試験に挑みます。

各分野の修了生代表は認定看護師として医療現場に臨むことへの決意と、7か月間をともにした仲間たちとの絆の大切さを述べました。



2018年度 一般・センター前期入試結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	
薬学部 ●薬学科	一般	1/30	65(65)	200(208)	191(203)	133(127)	2.5(2.8)
	前期入試	1/31		152(163)	142(151)		
	センター	A	15(15)	190(182)	190(182)	71(69)	2.7(2.6)
	前期入試	B	10(10)	86(80)	86(80)	41(27)	2.1(3.0)
歯学部 ●歯学科	一般	1/30	25(25)	53(59)	48(55)	55(65)	1.4(1.5)
	前期入試	1/31		33(43)	27(40)		
	センター	A	6(6)	119(99)	119(99)	110(86)	1.1(1.2)
	前期入試	B	4(4)	48(42)	48(42)	46(41)	1.0(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	一般	1/30	40(40)	388(383)	382(372)	102(114)	6.5(5.8)
	前期入試	1/31		292(304)	282(291)		
	センター	A	8(8)	196(187)	196(187)	45(46)	4.4(4.1)
	前期入試	B	6(6)	101(91)	101(91)	24(25)	4.2(3.6)
●臨床福祉学科	一般	1/30	23(23)	90(108)	88(106)	96(110)	1.7(1.7)
	前期入試	1/31		77(85)	72(82)		
	センター	A	6(6)	59(66)	59(66)	49(60)	1.2(1.1)
	前期入試	B	4(4)	51(46)	51(46)	48(46)	1.1(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	一般	1/30	24(24)	124(156)	121(153)	114(148)	1.8(1.8)
	前期入試	1/31		96(114)	88(111)		
	センター	A	8(8)	92(123)	92(123)	72(90)	1.3(1.4)
	前期入試	B	6(6)	82(55)	82(55)	78(52)	1.1(1.1)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	一般	1/30	30(30)	146(223)	144(220)	62(69)	4.2(5.5)
	前期入試	1/31		121(161)	119(158)		
	センター	A	7(7)	110(168)	110(168)	34(37)	3.2(4.5)
	前期入試	B	6(6)	66(65)	66(65)	18(22)	3.7(3.0)
●作業療法学科	一般	1/30	14(14)	163(215)	159(211)	73(96)	4.0(3.8)
	前期入試	1/31		138(160)	133(155)		
	センター	A	4(4)	102(153)	102(153)	44(58)	2.3(2.6)
	前期入試	B	3(3)	81(69)	81(69)	28(32)	2.9(2.2)
●言語聴覚療法学科	一般	1/30	14(14)	114(148)	111(147)	101(111)	2.0(2.3)
	前期入試	1/31		97(114)	94(112)		
	センター	A	8(8)	83(99)	83(99)	57(64)	1.5(1.5)
	前期入試	B	6(6)	59(53)	59(53)	46(42)	1.3(1.3)
合計	一般	1/30	235(235)	1,278(1,500)	1,244(1,467)	736(840)	3.0(3.1)
	前期入試	1/31		1,006(1,144)	957(1,100)		
	センター	A	62(62)	951(1,077)	951(1,077)	482(510)	2.0(2.1)
	前期入試	B	45(45)	574(501)	574(501)	329(287)	1.7(1.7)

小学生1日歯医者さん

～歯医者さんのキッズニアだぞ!～

2018年1月10日(水)、11日(木)の2日間、北海道医療大学病院や歯科クリニック、歯学部実習室において、小学生1日歯医者さんを開催しました。参加児童33名は、施設見学をはじめ、石膏を使った指の印象採得、歯牙切削、歯に関するクイズ大会などを体験しました。保護者の方も一緒となって、笑顔で楽しく、歯医者さんについて真剣に学ぶ姿が見られ、興味・関心を広げるひとときとなったようです。





薬学部
同窓会会長
桂 正俊

薬学部

薬学部同窓会は全国17支部(道内7、道外10)で活動を行っております。近年は会員数の増加に伴い、道内支部の細分化の動きが出ています。また、道外では逆に卒業生が減少していることから、本州支部の統合やブロック化も含めて考えていかなければなりません。各支部活動としては、多くの支部では、医療薬学セミナーと同時に支部総会や懇親会を開催し、その地域での薬業や医療に関する情報交換を行っているところであります。最近では歯学部や他学部の同窓会とも連携したセミナーの開催が行われている支部もあり、学部の枠を越えた活動が始まっております。同窓会の活動はどのように会員同士の交流を深めながら、それぞれの仕事やモチベーションを高めることをひとつの目標としておりますので、全国の同窓生が一様に参画できる支部役員

〈創立年:1979年 会員数:約5,612名〉

協力を得ながら活性化を図ってまいりたいと考えております。また、在学生も同窓会準会員としておりますので、入学時に行われる新入生宿泊オリエンテーションにも同窓会として参加し、卒業生の講演や新入生の交流が深まるようゲーム大会等を開催しています。さらに、卒業生の生涯教育として、医療薬学セミナーや将来ビジョン講座など卒業研修を企画するとともに「在校生と卒業生の合同懇談会」を開催しており、我々同窓会としても、入学時から学生に対しての支援活動を通して、大学に寄与できるよう努力してまいりたいと考えております。

■ <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~phalumni/>



歯学部
同窓会会長
養輪 隆宏

歯学部

政府は、2017年6月9日(金)に経済財政運営と改革の基本方針2017を閣議決定しました。その中に社会保障分野の健康増進・予防の推進等として「口腔の健康は全身に健康につながるから、生涯を通じた歯科検診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進など歯科保健医療の充実に取り組む。」との文言を入れました。いわゆる国の骨太の方針に具体的ななかたちで歯科関係の言葉が載ったことは初めてで、とても画期的なことです。政府がいかに口腔の健康を重視し出したかがよく分かる結果です。歯・口が健康な人ほど医療費が少ない、との報告があることから、歯科医療が毎年増え続ける医療費の削減に寄与できたら喜ばしいことです。一方では、お口の機能維持と歯及びそれを支える歯周組織の予防処置を大切にしたいとの思いから、定期的に通院される方々が年々増えております。「国民の口腔への意識が高まっている」と、日々医療現場の活動を通して実感しております。ところが、後継者不在な

〈創立年:1984年 会員数:約3,078名〉

どが理由で止むを得ず歯科医院を閉院するケースも散見され始め、地域の大切な社会資源が失われていくことを危惧しています。国民の健康を保持すること、歯科医療の衰退を防ぐためにも、我々同窓会は次世代を担う学生を応援しております。新入生オリエンテーションの協力、OBによる応援講義、学外臨床実習生の受入れ、海外短期臨床実習の補助、国家試験対策の支援、謝恩会の協力、同窓会賞の授与などがそれにあたりますが、今後、学生の皆様はじめ学部のご期待に応えるよう更にその活動を強めていきたいと思っております。

■ <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~d.alumni/dousoukai@clock.ocn.ne.jp>
■ 事務局 札幌市北区北6条西6丁目2-11 第3山崎ビル4F
TEL 011-299-9069 FAX 011-299-9609



看護学部
同窓会会長
川村 武昭

看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科

福慧会(看護学科同窓会)は活動20周年を迎え、2017年7月17日(月)には中島紀恵子初代学部長をお招きして記念講演会・祝賀会を開催し、皆さまのおかげをもちまして盛況のうちに終えることができました。日頃からご尽力をいただいております同窓生の皆さまをはじめ、各同窓会の皆さま、そして大学関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。さて、福慧会の主な活動内容としては、臨床福祉学科との協働で取り組む看護福祉学部同窓会セミナーと看護福祉学部学会の企画及び運営を主軸に、4学部及び専門学校とともに協働で開催している同窓会コラボ☆講演会があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を同窓生の皆さんにお伝えする会報誌(Fukueikai)の発行やホームページの運営、そして同窓生同士の繋がりを保つものとして会員名簿の管理を行っております。また、同窓会活動について検討するために13名の同窓生で構成される同窓会理事会を定期的に開催しております。現在、会員数が2,000名を超え、他学部の同窓会との連携した活動の増加に伴い、改

〈創立年:1997年 会員数:約2,000名〉

めて同窓会とは何か、誰のために何をめざす活動なのか、そして、活動に携わる私たち自身の存在意義とは何かを考えさせられます。仕事や家庭を持ちながら、家族や友人との繋がりを手放さず、年齢とともに担う役割が増えるなかで、たくさんの「ながら」を両手いっぱい抱えてもなお私たち同窓会役員が時間の合間を縫って集まり、真剣に意見を言い合う中に、その答えがあるようにいつも感じています。これからも同窓生の繋がりが途切れないうち同窓会セミナーや各種講演会の開催、クラス会の開催の助成等とおして、同窓生が安心して集い、語り合える機会を増やしていきたいと考えております。これからも会報誌やホームページを通じて活動状況をお伝えし参りますので時々目をとっていただけると幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~kango/>
■ kango@hoku-iryo-u.ac.jp



臨床福祉学科
同窓会会長
小畑 友希

看護福祉学部／臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科

福祉・介護同窓会の活動状況としては、定期総会を5月27日(土)の看護福祉学部同窓会セミナー終了後に開催しました。セミナーIは、「現代の貧困問題～子どもから高齢者～」と題し、臨床福祉学科の友藤芳恵教授に講演いただきました。続いて、シンポジストに吉見香先生(札幌乳児院児童家庭センター長)と、医療大卒業生の飯沼舞先生(足寄町役場・地域包括センター担当主査)に登壇いただきました。9月16日(土)の同窓会セミナーII(看護福祉学部学会共催)については、運営協力をしており、例年3月に開催している同窓会コラボ☆講演会も共催しています。今年度は初の企画として、地方同窓会懇親会を11月4日(土)に函館市で開催しました。臨床福祉学科の志水幸学科長、佐藤園美准教授と、卒業生は、若手から福祉介護系事業所の経営者となっているベテランの参加もあり、福祉・介護同窓会の層の厚さを改めて感じることができました。昨年度から換

〈創立年:2000年 会員数:約2,100名〉

討をはじめている同窓会各支部発足については、2018年度の研修会開催に向けて準備をしているところです。同窓会ホームページも随時更新しておりますので、詳細が決まりましたらご案内予定です。ホームページでは「リレーエッセイ」のコーナーで懐かしいあの人のエッセイも掲載しておりますのでぜひご覧ください。福祉・介護同窓会は2020年には設立20周年を迎えます。福祉15期卒業の新役員が加わり現在9名体制となっております。役員会では、20周年の企画についても話し合いを始まりました。同窓生同士のネットワークの強化も今後の課題です。今後とも関係者の皆様には、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

■ fukudo@hoku-iryo-u.ac.jp



臨床心理学科
同窓会会長
上河邊 力

心理科学部／臨床心理学科

当同窓会では例年、同窓会セミナーの開催や会報誌の発行を行ってまいりました。そのうち中心的な活動は同窓会セミナーの開催となり、本年度も2回を盛況のうちに終えることができました。第1回は、自分の気持ちやどのように伝えるか、相手の気持ちをどのように受け取るかといった技術を、ワークを通して磨くことができました。第2回には、心理的要因や発達の要因をバックグラウンドに持つ犯罪者に対して、再犯予防の観点からどのような支援が必要とされるのかについて学ぶことができました。同窓会が企画するセミナーではありますが、臨床心理士として活躍中の専門家の皆様のみならず、一般の方々にも興味を持っていただけるようなテーマになるように工夫をしております。そのかいあってか毎回一般の方々の参加者も少なくなく、大変ご好評をいただいております。また、最近の傾向とい

〈創立年:2006年 会員数:約491名〉

ましては、在学生の参加が多いのも特徴となっております。在学中から学びの機会を広げようとする姿勢を見せてくれる学生の皆さんを見ると、大変喜ばしい気持ちになります。同時に、そうした意欲に応えるべく身の引き締まる思いでもあります。現在、進学や就職を目指す学生と現場に身を置く卒業生との繋がりを生み出しやすくするシステムを検討中ですので、今後の動向にご期待ください。これからも同窓会は、時代や環境の変化に合わせた同窓会運営を行って参る所存ですので、変わらぬご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

■ <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~p.dousou/> ■ shinri-dousoukai@hotmail.co.jp



理学療法学科
同窓会会長
武田 智洋

リハビリテーション科学部／理学療法学科

2013年に開設された理学療法学科は、2017年春に第1期生が卒業しました。卒業生全員が国家試験に無事合格し、全国各地の医療機関や福祉施設において、それぞれが「理学療法士」として奮闘しているところです。第1期生の卒業に伴い、当学科においても同窓会を設立することとなりました。設立にあたっては泉唯史学部長、同窓会顧問を引き受けていただいた高橋尚明教授、そして、設立から運営にわたって指導いただいているあいの里ST会の先生方からは多大なご支援とご協力をいただきました。あらためて御礼申し上げます。本会は発足から早1年が経とうとしていますが、組織運営に関しては初心者ばかりであり、まだまだ学ぶべきことが多くあります。そのような中でも、今年は事業の企画、実行など具体的な活動に対しても積極的に取り組んでいきたいと考えております。現在、第2期生

〈創立年:2017年 会員数:約71名〉

の加入を心待ちにしているのとともに、卒業教育の一環として当学科教授を招いての第1回同窓会セミナーを企画しているところです。知識・経験量が豊富な先生による講演、学生時代お世話になっていた先生にだからこそできる質問や相談など、活発なディスカッションを通して同窓生が更に成長できるような場を作りたいと考えております。また、昨年同様に総会や理事会の開催、会報作成、ホームページ管理なども引き続き行います。今後後援会の皆様をはじめ、各同窓会の先生方に教授いただきながら、本学の発展、同窓生の更なる活躍の一助となるべく活動をしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ <http://iryoudaibt.web.fc2.com/> ■ iryoudaibt@gmail.com



作業療法学科
同窓会会長
田丸 仁啓

リハビリテーション科学部／作業療法学科

2017年3月に私たち第1期生40名が卒業し、同年6月24日(土)作業療法学科同窓会の設立総会を開催させていただきました。総会では、同窓会会則、2017年度活動計画、予算案、役員選出について承認いただき、無事に設立することができました。設立に際しましては、あいの里ST会の皆様には多大なるご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年度は、発足に向けての活動が中心となりましたが2017年12月に会報を発行しました。会員の皆様には会報にて当会設立の報告をさせていただき、活動計画、予算案等の情報提供を行いました。来年度は設立2年目ということで、未だに至らない点が多々あるこ

(創立年:2017年 会員数:約40名)

とと思いますが、ご支援いただいております先生方、同窓会員の皆様にもご協力をいただきながら、来年度は同窓会セミナーの開催も検討していきたいと思っております。まだまだ会員数も少ない月日が続きますが、卒業生、在校生、在学教員の繋がる場として作業療法学科同窓会が存在し続け、発展していく事ができるよう役員一同努力して参ります。

最後に後援会の皆様、各同窓会役員の皆様ご理解・ご協力の下に、当会の設立・運営が成り立っておりますことに深く御礼申し上げます。

■ hokuriyodai.ot@gmail.com



言語聴覚療法学科
同窓会会長
石黒 恵美子

心理科学部／言語聴覚療法学科・ 札幌医療福祉専門学校／言語聴覚療法学科・言語聴覚療法専攻学科

当会は、講演会の企画・運営、年に2回の会報の発行を通した現役生・卒業生の皆様への情報提供を中心に活動しております。今年度は、2017年6月24日(土)に同窓会セミナーを開催しました。本学卒業生の三上愛さんを講師に迎え、小児の姿勢・発達をテーマに講演していただきました。また、同日に同窓会総会を実施、前年度の活動報告と決算報告、今年度の活動予定・予算・役員の変更について承認がなされました。

現在は、2018年3月10日(土)開催予定の第11弾コラボ☆講演会、同年6月30日

(創立年:1994年 会員数:約1,100名)

(土)開催予定の同窓会セミナーに向けて準備を進めております。ぜひ、多くの皆様にご参加いただきたいと存じます。

最後に、後援会の皆様・大学内外の先生方のご理解・ご協力を賜り、滞りなく当会の運営を行っておりますことに、深く感謝申し上げます。同窓会活動を通じて卒業生の皆様・大学・地域社会に貢献できるよう今後とも努力してまいります。

■ st-kai@hoku-iryu-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)	連絡先
札幌支部	多田 正人(4)	☎011-812-2311
道北支部	沼野 達行(10)	☎0166-32-8181
十勝支部	石原 敦(3)	☎0155-28-3344
道南支部	吉田 元(12)	☎0138-27-7727
釧根支部	羽田野 貴志(11)	☎0154-32-1337
オホーツク支部	新井 俊(10)	☎0157-31-3310
日胆支部	山田 達生(2)	☎0142-76-5258
青森支部	三上 章(1)	☎017-729-0330
栃木支部	橋本 秀雄(3)	☎0285-54-5080
茨城支部	西野 郁郎(1)	☎0293-42-0239
北越支部	本間 信哉(3)	☎0254-26-7676
神奈川支部	川田 哲(3)	☎045-742-2301
東海支部	高尾 信彦(2)	☎053-451-0821
関西支部	山口 和俊(9)	☎0721-28-6261
中四国支部	勝原 聡(3)	☎082-291-2104
九州支部	山田 昌人(3)	☎0965-52-5750
沖縄支部	村田 成夫(4)	☎098-956-1093

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	佐藤 明理(4)	医療法人社団明雄会そのま歯科 ☎011-387-8811
青森支部	佐藤 孝治(2)	佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412
秋田支部	竹内 亨(7)	竹内歯科医院 ☎0182-22-2001
岩手支部	高野 玄(18)	高野歯科クリニック ☎0197-23-2488
宮城支部	佐々木 隆二(6)	ささき歯科 ☎022-383-8849
山形支部	芳賀 俊和(5)	芳賀歯科医院 ☎0238-84-8107
福島支部	外島 昭夫(7)	ホワイト歯科医院 ☎024-875-3232
茨城支部	秦 博文(2)	社会医療法人愛宣会ひたち医療センター歯科 ☎0294-37-0713
栃木支部	斎藤 真一(3)	斎藤歯科クリニック ☎0285-27-1234
群馬支部	斎崎 広治(1)	しのざき歯科医院 ☎0276-48-0118
埼玉支部	堅木 浩樹(5)	ヒロデンタルクリニック ☎049-232-4432
千葉支部	寺山 功(4)	葉山歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	蛸名 勝之(5)	エビナ歯科医院 ☎03-3200-4818

■看護福祉学部

☎0133-23-1211

- 看護学科(内線3641)担当:明野(実践基礎看護学講座)
- 臨床福祉学科(内線3708)担当:池森(医療福祉臨床学講座)

支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川支部	阿部 智彦(2)	阿部歯科医院 ☎045-953-7676
山梨支部	白壁 正光(8)	しらかべ歯科医院 ☎0555-72-4182
長野支部	小池 文一(2)	小池歯科医院 ☎026-224-1482
新潟支部	山下 克弥(9)	わかば歯科医院 ☎0258-83-1010
富山支部	藤川 晃(5)	藤川歯科医院 ☎0764-83-2231
石川支部	久保 伸一郎(2)	粟津歯科医院 ☎0761-44-4852
愛知支部	木村 英雄(1)	こめの歯科医院 ☎052-451-1182
京都支部	橋本 昌美(6)	こがはしもと歯科医院 ☎075-935-8148
大阪支部	西 一幸(1)	西歯科医院 ☎06-6793-7500
広島支部	早志 卓展(6)	たかひろデンタルクリニック ☎082-422-9600
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人谷本歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	清川 宗克(3)	清川歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805
沖縄支部	玉城 均(1)	ながた歯科医院 ☎098-854-1182

■心理科学部

☎011-778-8931 (学務部 心理科学課)

- 臨床心理学科
- 言語聴覚療法学科



歯科衛生士専門学校
同窓会会長
梶 美奈子

歯学部附属歯科衛生士専門学校

(創立年:1991年 正会員数:約1,171名、準会員:38名)

本会の目的は、1.本校で学んだ高い理念と教養を保つ。2.自主協働の精神に基づき広く社会に貢献する。3.本校の発展に寄与し、併せて学術研究の向上に努める。と会則に記載されています。1991年の発足以降、前述の目的に沿って、あるいは、目的自体を目標にして運営を行ってまいりました。会員数が1,000名を超え沢山の卒業生が臨床、教育、公的機関などあらゆる場で活躍しております。沢山の同窓生と学会や講習会で会合して皆様が高い意識を持って日々患者さんやクライアントに接していることがわかります。また、国内外の学会等で表彰を受けている同窓生の噂もちらほらと耳にします。同じ歯科衛生士としてそして同窓生として大変嬉しく思います。同窓生たちは、本校で学んだという基盤を武器に各部門で活躍されているのだと思います。

そんな同窓生たちに恥じぬように、同窓会はしっかりと歩みを進め学校と連携して新入生オリエンテーションへの協力や在校生に何が必要かなど、情報交換を行って支援をさせて

いただいております。同窓会の行事は様々ですが、年に2回講演会を行っております。一つは、同窓会独自で行うセミナーで毎年役員が講師の選択に頭を悩ませておりますが、テレビでもおなじみの先生にご依頼するなど趣向を凝らし、在校生を始め一般の方々まで多くの方にご参加いただいております。もう一つは、他の学部と一緒に連携してコラボ講演会を行い、口腔から全身の健康、食生活などについて学びます。

同窓会のあり方として、会員のみならず在校生もサポートしていかなくてはなりません。会自体が学校と連携しともに成長して行くことで会員、在校生にとって意味のある会となるように努力してまいります。

■ http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~takaturu/
■ okahashi@hoku-iryu-u.ac.jp

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211(内線3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・
公開講座に関するお問い合わせ先

学術交流推進部
地域連携課

☎0133-23-1129(直通) e-mail:nice@hoku-iryu-u.ac.jp



皆様へ



学校法人東日本学園後援会
会長 三上 章 (業1期)

後援会長を務めさせていただいております、薬学部一期生の三上です。後援会組織は改編から(OBによる運営、各同窓会長が役員になられております)二期目を迎え、会員数も2万名を超える大きな組織となっております。主な行事としては年に一度の地区別懇談会です。役員一同が手分けして全国15会場を回ります。役員の方々は自分の仕事の合間に走り回っております。すべて愛校心のなせる業だと思います。

私が入学した1974年から今年で44年が経ちます。私たちがなぜ医療人を選び、どのようにして北海道医療大学を選んだのか。学生時代は何に悩み、いかにしてそれを解決してきたのか、ともに悩んだ仲間は今どうしているのか。そして、今何を思うのか。それらを私たちは後輩たちに伝えたいと思っております。

現在の大学の現状を考える時に思うことがあります。それは、あまりに国家試験の結果に一喜一憂し過ぎてはいないかということです。確かにライセンスは大切です、議論の余地はありません。しかし、学生にとって今何が一番大切なことなのかを真剣に考えて行きたいと思っております。ライセンスの取得が多少遅れようとも人生には何の影響もありません。諦めなければ良いだけです。

私たち一期生には、何事にも屈しない、妖怪のような人がいっぱい居たように思います。次回はその妖怪たちを紹介したいですね。

事業紹介

1. 運営事業

- (1) 総会、理事会、支部長会議
- (2) 地区別懇談会

2018年度 地区別懇談会開催日程・会場(予定)

開催日	開催地	会場	開催日	開催地	会場
10月13日(土)	青森 大阪	青森国際ホテル ホテルグランヴィア大阪	10月28日(日)	帯広 仙台	ホテル日航ノースランド帯広 ホテルJALシティ仙台
10月14日(日)	苫小牧 名古屋 北見	グランドホテルニュー王子 名古屋栄東急REIホテル ホテル黒部	11月3日(土)	旭川 東京 那覇	アートホテル旭川 ホテル東京ガーデンパレス ホテルロイヤルオリオン
10月21日(日)	札幌	ニューオータニ札幌 京王プラザホテル札幌 センチュリーロイヤルホテル	11月4日(日)	函館 福岡	フォーポイントバイシェラトン函館 博多エクセルホテル東急
10月27日(土)	釧路 盛岡	釧路プリンスホテル ホテルメトロポリタン盛岡			



2. 学生生活助成事業

- (1) 保健関係

「診療費補助制度」で学生の健康管理をサポート

学生の健康増進と医療費自己負担の軽減を目的に、学生の保険診療分の自己負担額の一部を「後援会」が補助する「診療費補助制度」があります。また、矯正歯科等の保険適用外診療に関しても30%を補助します。

●補助実績:3,324件(2016年度) 両キャンパスに医療機関があります。

- (2) 定期健康診断等
定期健康診断・予防接種等に係る助成
- (3) 国家試験対策
模擬試験等の国家試験対策に係る助成
- (4) 就職活動
就職対策(特別キャリアデザイン講座、セミナー開催等)に係る助成
- (5) 学生教育研究災害傷害保険
正課中等の傷害に対応した「学生教育研究災害傷害保険」に係る助成
- (6) 奨学金
- (7) 新入生オリエンテーション
- (8) 海外語学研修参加学生の渡航
海外語学研修参加学生の渡航に係る助成・カナダ アルバータ大学(8月5日~25日)



- (9) 海外の大学間・学部間連携大学への学生派遣
渡航に係る助成
- (10) 課外活動
- (11) 食堂等の運営
- (12) 保健センター運営
- (13) 学習・生活環境整備

3. 同窓会等助成事業

- (1) 同窓会活動支援 同窓会の詳細は、pp.6-7をご覧ください。

- (3) 支部活動支援

- 1. 支部活動支援
全国10支部に対して、支部活動費用を補助
- 2. 支部懇談会の開催支援
- 3. (大学祭(九十九祭)における支部活動支援)



- (4) 会員連絡・調査、広報

会員に対し、以下の連絡・調査、広報を実施

- 1. 事業(地区別懇談会)開催案内
- 2. 会費納入通知
- 3. 会員名簿整理
- 4. 新入生父母へ学生便覧等配付(入学式)
- 5. 在学生父母へ求人関係資料等配付(地区別懇談会)
- 6. 会員へ広報誌配付

- (5) 学園式典助成

学生及び父母等へ記念品配付(入学式及び学位記・卒業証書授与式)

- (6) 周年記念事業の準備支援
- (7) 第3号会員の入会促進

全国10支部協賛



「ニッポン全国特産品市」は後援会全国10支部から集められた各地の選りすぐりの特産品、名産品、ご当地グルメ等を、有志の在学生の手によって在学生、高校生、一般の方へ提供することにより、北海道医療大学の全国性をアピールするとともに在学生と卒業生のかけ橋となるイベントとして6年連続で実施し、来場者の好評を博していました。

また、今年度も「進路・就職・キャリア形成なんでも相談会」を同時に開催しました。このイベントは、進路や就職について実務経験豊富な卒業生や有識者に相談する機会を設けることで、相談した学生が将来の仕事のイメージを描き、来たる国家試験や就職試験に向けた意識づけを行うものとして大変有意義な場となりました。

全国各地の特産品等▶





第10期 SCP(学生キャンパス副学長)が決定

薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部から各1名が選挙により、第10期Student Campus President(通称:SCP)に選出され、浅香正博学長からユニフォーム(ブレザー)の授与とともに、正式にSCPとして任命されました。

SCPIは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を行い実施する、全国的にも珍しい北海道医療大学独自の制度です。SCPは、オープンキャンパスなどの大学行事や学生代表としての学内会議参加、外部機関研修会での講演、雑誌取材対応やイベント参加など学内外で北海道医療大学の顔としての活動も行っています。

本学では、各SCPの企画を実現するため、活動費やキャンパス内に設置されたSCP室の提供、教職員や卒業生の協力などの支援体制も充実させています。全国から注目を集めるSCPの多岐にわたる活動は、随時、SCPのホームページで報告しています。



SCPホームページ <http://scp.hoku-iryu-u.ac.jp/>

第10期 SCPよりご挨拶



薬学部
安田 彩夏

私は春に入学したばかりの1年生ですが、各学部のSCPと協力し、皆さんの意見・要望を集め、実現できるようにしていきます。対外活動においても北海道医療大学の特徴をアピールし、良好なコミュニケーションがはかれるように頑張ります。また、個人としても地域や他大学の方々との関わりを通じて人として成長できる1年にしたいと考えています。



看護福祉学部
石黒 和彦

SCPIはよりよい大学づくりをめざすために作られた制度です。私たち学生代表が教職員とともにプロジェクトの企画・立案を行い、実施します。これまでに、食堂の改善や図書館の充実化などが行われてきました。私は学校生活を充実させるため、みなさんが意見や要望を出しやすいシステムを作ります。なぜなら、学校生活の主役はみなさんだからです。在学生一人一人の意見を大切にすることで、みなさんが学校で生き生きと生活ができるようになることが、私の目標です。



リハビリテーション科学部
田中 優輝

SCPIは、学生の大学運営の参画を促すことで、より良い大学づくりをめざす取組です。しかし、具体的にSCPが何を行っているか、みなさんはご存知でしょうか。私は、SCPのお話を頂くまで、全くと言っていいほど活動内容を把握していませんでした。SCPがより良い大学づくりをするためのプロジェクトを立ち上げるには、学生のさまざまな意見を取り入れることが重要です。しかし、SCPにどう意見を伝えればいいのか分からないのが現状です。



歯学部
橋谷 怜奈

大学生活において、皆さんが「もっとこうだったらいいのにな」と感じた事や意見を基に、より過ごしやすい大学を作っていきたいと思っています。これからの活動に、歯学部をはじめとする縦と横の学年の繋がりが、また、医療系総合大学だからこそ可能である他学部との交流・連携を大切にしていきたいです。



心理科学部
石田 千典

大学での不便を少しでも減らすことによって、より充実した学生生活を過ごせるようにしていきたいと考えております。学生生活の中で大学に対して不便を感じることや、改善して欲しいと思うことは多くの学生にあることでしょう。その学生の不満を大学に届け、改善していくこそSCPの役割であり、義務であると考えています。そのために、皆さんの意見や要望が確実にSCPに届くよう、そして、届いた要望には必ず何かの回答を出せるよう一生懸命取り組んでいきたいです。

そこで私は、学生が自由に意見を投稿できるシステムを確立したいと考えています。今まで漠然と、「学生の声に耳を傾ける」、などと言われていたものを「学生の声をSCPの議題にする」形に変えていきたいと思っています。

SCP主催 チャリティ・キャンドル・ナイトを開催

2017年12月18日(月)、第10期SCP主催によりチャリティ・キャンドル・ナイトを本学20周年記念会館2階において開催しました。会場内はクリスマスツリーとともに500個超のLEDキャンドルに明かりが灯され、窓外の泡雪と相まって幻想的な雰囲気が広がりました。

また、学友会団体の協力の下、カフェクラブのドリンク・お菓子の提供、ピアノ同好会、弦楽部、アカペラ部によるミニ演奏会などのチャリティ企画も行い、寄せられた募金は、後日、当別町社会福祉協議会に全額寄付しました。



私の学生時代

看護福祉学部
看護学科

教授 濱田 淳一



憧れの北海道の地に足を踏み入れたのは、18歳の春でした。ちょうど日本の漁業が獲る漁業から作る漁業へと転換する時期で、水産学って面白そうと思い、北大に入学しました。札幌キャンパスで過ごした教養課程は我が世の春でしたね。下宿やクラスの友人と遊び呆けて、気が向いたら勉強とバイトという生活で、これまでの人生の中で最もストレスのない1年半



北大入学当時、札幌キャンパスでのクラスの仲間と。左から3人目の立っているのが私です。

でした。また、生まれて初めて蝦夷地の四季を身近に感じることができ感動の連続でした。特に、梅も桜もツツジも一緒に咲き誇る春と夜のしじまに舞う雪の美しさには圧倒されましたね。

函館の水産学部への移行と同時に、心機一転、体たらくな生活におさらばしました。大学の周りに遊ぶところがなかったのも理由の一つですが…。午前は座学、午後から実験、夕方はフェンシングで汗を流すという毎日でした。毛の一本一本まで詳細に描いた毛ガニのスケッチや顕微鏡下でのプランクトンの解剖などは懐かしい思い出ですね。実習も多くて、七飯や洞爺湖、白尻の大学の施設を始め、道内外の水試やふ化場に足を運び鍛えられました。また、僅か1週間ですが乗船実習も経験しました。しかし、これは地獄でしたね。ただでさえ船酔いしているのに、滴定法で海水の溶存酸素を測定するのですよ。吐き気との戦いでしたね。最



乗船実習、おしよ丸の甲板上。一番前の真ん中で蹲踞の姿勢が私です。

終学年は、自分の卒論はそっちのけで教室の院生の実験補助に明け暮れました。昼夜を問わずサンプリングやラボでの実験に邁進する先輩諸氏の姿が、自分には嬉々として遊んでいるように映りました。これが「研究の道に入る動機の一つになりました。ただ、水産学ではなく、北大の獣医学研究科(修士)、医学研究科(博士)と進み、現在の専門である腫瘍学の世界に身を置くこととなりました。そのきっかけは、学部時代に腫瘍をもったカレイに出会い、生意

気にも摩訶不思議ながんの正体を解き明かしたいと思ったからです。改めて大学の4年間での人や生き物との出会いがなければ今の自分はないなと思います。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は濱田淳一教授と杉原佳奈専任教員のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

歯科衛生士専門学校

専任教員 杉原 佳奈



私は本学の歯科衛生士専門学校(当時は2年制)を卒業後、看護福祉学部へ、さらに大学院へと同期よりも長い学生生活を過ごした。実は元々は歯科衛生士ではない医療職をめざしていたが、学力が足りず失敗。かといって浪人する経済的余裕もなく、どうしようかと思った時にふと目に留まったのが歯科衛生士専門学校だった。2年で資格を取れるという安易な考えだけで何となく入学してしまったため、入学後もなかなかモチベーションが上がらず、ほんやりとした日々を送っていた。

そんな時、ある授業の中で、障がいを持っている方々が勉強する際のサポートをするボランティア活動があると知った。以前に同様のボランティア経験があったので、「これなら私にもできるかもしれない」と、学生便覧に載っている学内地図を見ながら、勇気を出して一人で看護福祉学部の研究室を尋ねたことを今でも覚えている。何をしても良いかわからない毎日だったので、何か自分の殻を破るきっかけとなる突破口を模索していたのだろう。また、当時の専門学

校の先生がとても熱心で、提出したレポートに必ず丁寧にコメントを入れてくださったり、よく声を掛けてくださった。幼少期から目立たない存在で、人からあまり褒められたことがない私にとっては、小さなことでも頑張りに見て認めてくれる人がいることがとても嬉しかった。「歯科衛生士=歯科医院で働く」というイメージしかなかったが、教育という仕事があることを知り、自分も学生の背中を押してあげられるような教員になりたいといつしか将来の夢を抱くようになった。そういったことが重なり、当初は専門学校の2年間で社会人となるはずが、両親に無理を言って看護福祉学部への更なる進学を許してもらった。

大学では編入生だったため、自分の足りない単位を修得するために毎日朝から夕方まで色々な学年に混ざりながら受講し、両親になるべく迷惑を掛けないように夜はアルバイトを掛け持ちし、合間に課題をこなす忙しい日々だった。大学3年生でゼミを選択することになり、私は石川秀也教授(前臨床福祉学科長)のゼミを志望した。色々な学年を渡り歩いて放浪(?)していた私にとって、ゼミはようやく自分の居場所が見つかったような気がした。10名のゼミ仲間と先生と、沢山学び、沢山語り、沢山飲み、人生で一番濃密な時間を過ごした。石川先生はいつも「お前

たちのことを親友だと思っている」と言って私たちのことを信頼して応援してくれた。卒業から10年以上たった今でも、毎年2回(キャンプや忘年会等)で先生を囲み、語りあっている。仕事で行き詰まった時、結婚する時、子供が生まれた時等、人生の色々な局面において私たちは尊敬する恩師であり、親友でもある石川先生に報告をしている。今はそれぞれ環境は異なるが、久しぶりに会うと一瞬で大学時代のあの毎日に戻ったような気がする。かけがえのない仲間をこの先も大切にしていきたい。

長い学生生活の中で私が得た一番の財産は「人との出会い」である。授業やアルバイト、学外実習、ゼミを通して色々な年代の沢山の方々と接することで、自然とコミュニケーション力が上がり、緊張せずに人前で話せるようになったからこそ今の自分があるのだと心から感謝している。恩師が私にしてくれたように、学生が迷ったり困った時には寄り添い、力になれる存在になりたい。



石川ゼミでの夏合宿。豊浦町の特別養護老人ホームを訪問し、勉強させていただきました。右下が私です。

OB訪問



今回向かったのは夕張市。財政再建、人口流出という厳しい現実にも前向きな施策を打ち出し全国から注目されるこのまちで、在宅医療に情熱を注ぐ薬剤師・小島さんを訪ねました。地域に飛び込み、地域に溶け込む新しい薬剤師像をご紹介します。

アインホールディングス 地域連携部地域連携課 課長／薬剤師
小島 多加志さん（薬学部薬学科1992年卒業）

■ 震災が変えた薬剤師像

小島さんは本学薬学部卒業後、調剤薬局での店舗勤務、薬剤師研修、本部運営などに携わり、2011年からアイン薬局夕張店で在宅訪問専任薬剤師として活躍しています。この年は小島さんの薬剤師像を大きく変えた年でした。3.11東日本大震災。小島さんは発生10日後から、被災した岩手県のグループ店舗の支援に入り、限られた在庫をやりくりして極限状態にある人々に薬を届けました。この時抱いたのが「いままでは患者さまが来るのを待つだけだった。人や社会の役に立つためには、薬剤師ももっと能動的にならなければ」という強い思いだったといいます。その思いが現在の小島さんの原動力です。

■ 多職種ケアカンファレンス

取材日は、週に1度の多職種ケアカンファレンスの日。夕張市立診療所に医師、歯科医師、看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士、社会福祉協議会ケアマネジャーや介護老人保健施設相談員、診療所事務長など医療、介護にかかわるありとあらゆる職種が集まり、在宅医療利用者についての情報共有が図られていました。利用者の現在の状態や意思、ご家族の希望などが細かな点まで共有され、意思統一の下で各職種がどう動くべきかが次々と決まっています。このほか医療・介護



取材日は18名で行われたカンファレンス。歯科診療部長の八田政浩先生（中央・白衣上下の方）は本学歯学部卒業生、予防・在宅をキーワードにした口腔ケアの第一人者です。

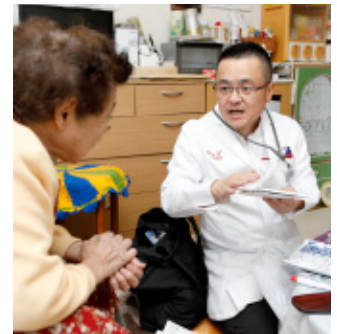


「聴診器をかけた薬剤師」小島さんは、訪問時に血圧、脈拍、酸素飽和度を測定。日本在宅薬学会に所属し、薬剤師対象のバイタルサイン講習の指導者、エヴァンジェリストの認定も受けています。

スタッフに寝具や在宅酸素を扱う業者を加え、患者さん宅で方向性を話し合う在宅担当者会議も必要に応じてもたれるそうです。

■ 患者さんの生活の場へ

カンファレンス後、患者さん宅を訪問する小島さんに同行しました。小島さんは、医師が基本2週間ごとに行う訪問診療後に出す処方箋、情報提供書に基づいて調剤し、通院が困難な患者さんの元へ薬を届けます。訪問先は個人宅のほかグループホームなど施設もあります。しかし、単なる薬のデリバリーではありません。患者さんの理解力、生活パターンに合わせて薬の説明をし、飲み忘れ・飲みすぎ防止方法を具体的にアドバイス、健康食品の相談も受けます。「数居の低い存在でありたい」と患者さんの懐に飛び込んでいく小島さんの中には、患者さんの趣味、遠方に住むご家族、これまでの人生、あらゆる情報が蓄積されているのがわかります。「なんでも気軽に聞けるいい先生よ」「説明がわかりやすくて助かるの」、見学を快く受け入れてくださった患者さんのことばから、小島さんへの信頼が伝わってきます。



残薬管理は壁に掛けるカレンダー型、ボックス型など生活の様子を見てアドバイスします。

■ “夕張モデル”を担う

小島さんは訪問時にバイタルサイン^{*1}をチェックします。「薬が効いているか、副作用はないかの確認、さらに訪問を異常の早期発見につなげるため、薬剤師にもフィジカルアセスメント^{*2}が重要と考えます」（小島さん）。患者さんの状況は必要があれば医師とすぐに共有、時には携帯するタブレット端末で撮影した画像を提供します。

訪問する患者さんの病状は様々です。がん終末期の在宅での緩和医療というケースもあります。これまでに医師らとともに在宅での看取りも経験しました。「薬剤師は守備範囲が広く、チーム医療のキーパーソンとなり得ます」。きっぱりとした小島さんの口調に仕事への誇りがのぞきます。

国が在宅医療を推進するなか、人口が激減し高齢化率が50%を超えた夕張市の取り組みは“夕張モデル”として全国から注目を集めています。訪問薬剤師の可能性を切りひらき続ける小島さんの毎日も、薬剤師の一つのモデル確立へとつながりそうです。

*1 体温・血圧・脈拍などの生命徴候。

*2 問診、視診、聴診など患者の身体に触れながら症状の把握や異常の早期発見を行うこと。

本家寿洋教授の原著論文が 日本保健科学学会誌において「優秀賞」を受賞

原著論文「Reliability and validity of the Japanese Elderly version of Leisure Activity Enjoyment Scale」を執筆したリハビリテーション科学部作業療法学科の本家寿洋教授は、2016年度日本保健科学学会誌に掲載された原著論文のなかで、もっとも優秀な論文に与えられる「優秀賞」を受賞しました。

2017年9月30日(土)に首都大学東京で開催された第27回日本保健科学学会において、同賞の表彰と併せて受賞講演を行いました。受賞講演では、この原著論文は、高齢者が過去に経験した余暇活動の楽しさを把握する評価法の信頼性と妥当性を検討した論文であることや、この評価法を基盤に脳卒中・認知症・がんなどの疾患や1次予防に貢献できる余暇活動の楽しさプログラムを開発する研究への将来展望が報告されました。



大学院生の秋月茜さんが北海道体育学会において 「若手研究者賞」を受賞

2017年12月9日(土)、10日(日)に開催された2017年度北海道体育学会第57回大会において、大学院リハビリテーション科学研究科博士課程2年の秋月茜さんが、優秀な若手研究発表に与えられる「若手研究者賞」を受賞しました。

秋月さんは、「北海道マラソンに出場した男性ランナーにおける障害の部位と走行距離の関連」というテーマで発表を行い、ランニング障害の発生部位が練習における走行距離、体型、走歴、走力によってどのように異なるのかを明らかにし、ランニング障害の予防に役立てられる重要な研究として、今後の更なる活動に期待が寄せられています。



尾形美和歯科衛生士が日本歯周病学会学術大会において 「ベストハイジニスト賞」を受賞

2017年12月16日(土)、17日(日)に国立京都国際会館で行われた日本歯周病学会60周年記念京都大会において、歯科クリニック歯科衛生部の尾形美和歯科衛生士が「ベストハイジニスト賞」を受賞しました。この賞は、日本歯周病学会の学術大会における歯科衛生士ポスター発表セッションにおいて最も優れた内容のポスター発表に対して表彰されるものです。

尾形歯科衛生士は、前回大会の春季学術大会(福岡)において、「多数の全身疾患を有する歯周病患者に非外科的な歯周治療の著名な効果が認められた1症例」と題したポスター発表を行い、その治療内容と考察の質の高さ、そして、他の学会会員の会員活動に及ぼす貢献度が評価されました。

歯周病が全身の健康に及ぼす影響が注目されている現在、尾形歯科衛生士のみならず歯科衛生士の今後の活動に益々の期待が寄せられています。



EDITOR'S NOTE

健康科学の領域での最新の研究にソーシャルキャピタル(社会的資源)と呼ばれているものがあります。その知見によると「まわりの人や社会との繋がりが薄いと感じている人は健康寿命が短い」とのことです。つまり孤立は健康の敵というわけです。この世の中はそれなりにうまくできている。善意には善意が返ってくる。いわゆる「情けは人の為ならず」と感じている人の健康寿命は長くなるというのです。人間関係こそがソーシャルキャピタルの要点かもしれません。邂逅(かいこう)という言葉が示すように、どのような人と巡り合うのかは時にその人の人生にとって決定的な意味を持つことがあります。人との出会いについて、作家の宮本輝さんは近著『水のかたち』の中で「善き人との出逢いやつながりが、思いもかけない幸福や幸運を呼ぶ」、「善き人とは、他者の痛みや悩みを我がごとのように感じ、何とか力になってあげようと行動を起こす人と定義したい」と書いています。この号が発刊される時節は別れと出会いが交錯する春になると存じます。これから先、皆様が善き人と出会い豊かな人生となりますことを祈念申し上げます。寒さ厳しき折ですが、お体健やかにお心康らかに気持ち爽やかに過ごさば幸いです。(K・S記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.169

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 仲西 康裕 松田 康裕
遠藤 紀美恵 志渡 昇一 金澤 潤一郎 澤田 篤史
本家 寿洋 柳田 早織 大山 静江 杉谷 昌彦
宮川 雄一 小林 伶 園部 望未

発行日 ● 2018年3月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎ 0133-23-1211 (代表)
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。